

取扱いの趣旨

口腔内装置は、患者の咬合状態の変化や破損等により、再製作が必要となる場合があることから、同一初診期間中で6か月を経過し必要があつて再製作した口腔内装置に係る費用は原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】

《令和2年9月28日》

36 口腔内装置②

○ 取扱い

原則として、同一初診期間中で6か月を経過し必要があつて再製作した口腔内装置に係る費用の算定を認める。

○ 取扱いを定めた理由

口腔内装置は、患者の咬合状態の変化や破損等により、再製作が必要となる場合があるものと考えられる。

○ 留意事項

本取扱いは、口腔内装置を製作後、6か月経過している場合に口腔内装置の再製作に係る費用の算定を認める取扱いを画一的又は一律的に適用するものではない。

また、6か月未満に口腔内装置を再製作した場合は、事例ごとに判断する必要があると思われる。

なお、口腔内装置の再製作が傾向的に見られる場合にあっては、医療機関に対する照会が必要であると思われる。



【該当件数】 同一初診内で6か月を経過し口腔内装置を算定しているレセプト件数